戦略的研究プログラム　脱炭素・持続社会研究プログラム

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
○アジア主要国の脱炭素を継続するための主導をお願いしたい。重要な国際貢献になると思われる。 ○第 4 期の低炭素プログラムから脱炭素・持続社会への研究プログラムとして研究を進めることに、大きな進歩があった。 ○社会実装のためのドライビングフォースをどう設計するのか、各ステークホルダーの役割や変化を構造化する展開があってもいいと思われる。 ○後発発展途上国への対応よりさらに難しい、次世代・将来世代の意見を反映させるという困難な課題に取り組むことを評価する。概念整理と意見を取りまとめる体制の整備の段階である、2021～2022 年までが勝負時であると思われる。国際的なプラットフォームで進めるとともに、国民向けの啓発についても鋭意努力されたい。
今後への期待など
○地球規模、アジアを中心とした国レベルでの取り組みは不可欠であり、将来を見据えた世代間衡平性への検討も期待する。 ○社会変革をうながす梃子の支点を具体的に提示できると期待される。特に、世代間平衡性を組み入れた持続可能性指標の開発は重要な課題である。地球システムモデルに人間活動のモデルを結合させた地球システム総合モデルは複雑であるため政策決定者に理解される工夫が必要ではないか（「梃子の支点」がどこにあるかを示す根拠に使えるように思う）。各国の多様性を考慮した国別シナリオとのギャップを埋める、対策・施策、制度のロードマップの提言にも期待する。

主要意見に対する国環研の考え方
①　現時点では「社会実装のためのドライビングフォース」は特定できていません、国だけでなく自治体や民間企業など様々なステークホルダーに対して分析結果を提示し、そのフィードバックを得たり、議論を行うことで特定化していきたます。また、学理と社会実装を同時に進めることは困難な課題ではありますが、こうした課題を克服してこそ脱炭素で持続可能な社会が実現できると考えていますので、二兎を追います。 ②　世代間衡平性は PJ3 にて理論的な分析に取り組みますが、その成果は PJ1、PJ2 でも共有します。ご指摘の通り、ここ数年の取り組みが脱炭素社会の実現を左右すると認識していますので、できる限り前倒しで結果を出せるように取り組みます。 ③モデルについて政策決定者を含めたステークホルダーに理解してもらうための取り組みを、地球システム統合モデルだけでなく、各国の分析についても行います。こうした取り組みを通じて、モデルの結果を正しく活用していただくとともに、ステークホルダーが必要としている情報を適切に提供します。 ④各国の GHG 削減については、カーボンバジェットの観点から検討を進めています。中国だけでなくインドの排出も大きく影響するとみています。